



岐阜県神戸町の山王まつりから考える 大麻の過去と未来

山王まつり 暗闇を松明(たいまつ)とともに駆け抜ける神輿

7つの区の七基の神輿

祭りの中心は、5月4日の午前0時からの朝渡御(あさとぎょ)と午後5時からの還御(かんぎょ)でおこなわれます。朝渡御では、日吉神社から参道の先にある御旅所(おたびじょ)と言われる神輿を鎮座しておく場所まで神輿が担がれ、還御では、御旅所から日吉神社へ担がれます。(今年は、4月30日)

別名「神戸の火祭り」

朝渡御では、竹を軸にして可燃部には大麻草の幹が束ねられた松明に囲まれた中、神輿が担がれます。

大麻草と祭り

大麻草の麻幹(オガラ：枝葉と皮を取り除いた幹)の松明は、神戸町の山王まつり以外に、長野県と同祖祭りや愛媛県の柱祭り等で使用されます。



朝渡御の様子

大麻 伝統的利用と現在の規制のジレンマ

繊維で使用される大麻

一般的に『麻』は、植物から採取される麻に似た繊維の総称ですが、「家庭品質表示法」で『麻』と表示できるのは、亜麻(リネン)と苧麻(ラミー)のみ。本来の麻である『大麻草』の繊維は『麻』と表示できません。

規制薬物としての大麻

大麻草には有害物質の少ない無毒な品種と、有害な品種がありますがその区別がなく、無毒であっても厳しい規制が課せられています。



大麻草の麻柄の松明

ワークショップ開催報告 大麻の歴史と今後を考える

山王祭から大麻の利用について議論

山王まつりの魅力を学ぶとともに、大麻草という植物が辿ってきた道と今後の持続可能な活用を考える。



神輿のルートを進む

山王まつりの魅力に関する講演

講師：山田一夫氏(日吉神社氏子総代会会長)

伝統を未来に活かすための大麻に関する講演

講師：若園和朗氏(日本麻協議会事務局代表)

神戸町のまち歩き

祭りの際に神輿が往復する日吉神社から御旅所までの道を見学及び日吉神社での参拝。

大麻の利用についての討論

有害物質の含有率が低い大麻草の普及、栽培者同士の連携の強化等の意見が交わされた。



討論の様子

中部ESD拠点「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」

は、文化と生物の多様性を学び、それらの保全を通して持続可能な地域づくりをおこなう活動で、トヨタ環境活動助成を受けています。市民一人ひとりが、文化・日常生活との関わりの中で、生物多様性の重要性を理解するために、地域文化の中でも特に「祭り」に焦点を当てて、祭りに関わる植物・食べ物(食材)の生育環境保全についての学習プログラムを開発し、ワークショップを開催しています。

